

「クラウドコンピューティング時代のデータセンター活性化策に関する検討会」報告書の概要

データセンターは、情報通信ネットワークと車の両輪をなす重要なICT基盤。今後の社会経済発展のために、国内データセンターのさらなる利活用が必要。

クラウドコンピューティングの登場

データセンターは所在地によらず自由に選択可能な状況となり、グローバルな競争環境下へ

集約化による効果が発生。大規模なデータセンターであればある程、コスト的に優位な状況。

どこからでもサービス提供が可能のため、日本で提供ができなければ、海外からの提供が可能。

どこからでもサービス提供が可能のため、エンドユーザーはどこからサービスを受けているのか意識する必要がない。

<海外データセンター利用の場合の問題点>

国内のサービス提供者:

データセンターはサービス提供拠点。海外データセンター利用によりビジネス拠点も海外流出。

エンドユーザー:

海外からのサービスは、国内消費者保護法制による権利保障がない。

情報通信産業:

海外からのサービスは国内事業者の収益にならない。さらには技術的基盤も流出。

社会経済活動全体:

社会経済活動の基盤、新産業創出の基盤の海外流出。

<国内データセンター活性化に向けた課題>

高コストである

課題①:

国際競争上の事業環境の差

データセンター好適地であることが訴求されていない

国内消費者保護法制の適用が訴求されていない

課題②: 国内データセンターの利点訴求不足

サービス品質レベルの提示があいまい（国内事業者の説明不足）

著作権法の存在

課題③:

国内データセンターの利用を制約する課題

機器の耐用年数の見直し等

特区制度の構築等

引き続き検討